

I 研究主題

児童生徒の学びの充実を実現する授業づくり ～ 3つの視点に基づいた授業改善～ 2年次研究（1年次）

II 研究主題設定の理由

本校では、平成30・令和元年度の前次研究において、研究主題を「児童生徒が意欲的・主体的に活動する授業づくり～授業づくりシートや授業充実観点表の活用をとおして～」として、学部ごとに「授業づくりシート」を作成し、「児童生徒の意欲的・主体的な姿」をイメージしながら、授業づくりに取り組んだ。「授業づくりシート」で手立てを共有化することにより、活動の見通しをもち、生き生きと活動に取り組み、目標を達成できるようになったという変容を見てとることができ、児童生徒が意欲的・主体的に活動する授業づくりにつなげることができた。「授業づくりシート」は、今後も各学部の授業形態に応じて活用し、授業の充実を図っていくこととなった。

今年度の研究を進めるに当たり、職員アンケートを実施した。授業づくりシートを継続し、新学習指導要領にかかわる授業づくりをテーマにすることを希望し、「いわての授業づくり3つの視点」を取り入れたいという意見が多数あった。

岩手県教育委員会では、新学習指導要領の実施に伴い、よりよい授業を目指し、各発達段階、各教科に共通する授業づくりの基本として、「いわての授業づくり3つの視点」を児童生徒の資質・能力の育成を目指して再整理している。この視点は、児童生徒の資質・能力を育成するために必要な「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指している。

いわての授業づくり3つの視点

視点1：学習の見通し

視点2：学習課題を解決するための学習活動

視点3：学習の振り返り

そこで、本研究では、児童生徒が「何を学ぶのか」、「何ができるようになったか」を明確にし、児童生徒の学びの充実を実現するため、「授業づくりシート」を活用しながら、「いわての授業づくり3つの視点」に基づいた授業改善を行い、学校教育目標の達成を目指し、児童生徒主体の授業づくりに取り組むこととした。

III 研究の目的

「いわての授業づくり3つの視点」に基づいた授業改善をとおして、児童生徒の学びの充実を実現する。

- 1 児童生徒の「できるようになりたい」思いと教師のねらいを共有する。
- 2 「何を学ぶのか」、「何ができるようになったか」を明確にし、評価に基づき次の単元の目標設定をする。

IV 研究の内容

1 研究の内容

- (1) 「いわての授業づくりの3つの視点」に基づいた授業実践（各学部）
- (2) 「授業づくりシート」の活用（各学部）
- (3) 学びの充実を実現する授業づくりについての考察

2 研究推進計画

年次	推進内容
1年次 (令和2年度)	<ul style="list-style-type: none"> ○研究主題の提案、検討 ○授業実践 <ul style="list-style-type: none"> ・「授業づくりシート」の検討 ・学部ごとの「いわての授業づくり3つの視点」に基づいた授業づくり ・全体授業研究会の実施 ○1年次のまとめ、2年次の方向性の確認
2年次 (令和3年度)	<ul style="list-style-type: none"> ○研究の方向性の確認 ○授業実践 <ul style="list-style-type: none"> ・「授業づくりシート」を活用した授業づくり ・全体授業研究会の実施 ・学びの充実を実現する授業の考察 ○研究のまとめ

V 研究の実際

1 1年次の経過

日時	研究会	内容
5月26日(火)	第1回全体研究会	研究主題の確認
6月23日(火)	研究日(学部研究会)	学部研究の推進 授業改善 研究日を基本とし、各学部で設定
7月21日(火)		
9月15日(火)		
10月27日(火)		
11月24日(火)		
12月17日(木)	全体授業研究会	「3つの視点に基づいた授業づくり」
12月22日(火)	研究日(学部研究会)	全体授業研究会のまとめ
2月16日(火)	研究日(学部研究会)	一年次のまとめ
3月4日(木)	第2回全体研究会	一年次のまとめの確認

2 「いわての授業づくり3つの視点」の取り組み

児童生徒の姿、授業づくりのポイントを、単元のまとまりの視点でみること、児童生徒の学びの充実を実現する視点を明確に「資質・能力」でみることを確認する。

視点1：学習の見通し

児童生徒が「何を学ぶのか」を明確にする。

児童生徒のできるようになりたい思いと教師のねらいを共有していく。

視点2：学習課題を解決するための学習活動

児童生徒が主体的に課題に取り組めるような学習活動を充実させる。

視点3：学習の振り返り

児童生徒が「何ができるようになったか」学んだことを自覚し、達成感や学習内容の有用感を得られるようにする。評価を次の単元のねらいに生かすようにする。

3 全体授業研究会

各学部の取り組みについて共通理解を図るため、小、中、高の全学部、音楽の授業で、全体授業研究会を行った。

- ・小学部：12月 8日（火）3校時 単元名「やまのおんがくかになろう」
- ・中学部：12月 8日（火）5校時 単元名「合奏をしよう」
- ・高等部：12月10日（木）5, 6校時 単元名「『恵風太鼓』を演奏しよう」

協議の柱を「3つの視点に基づいた授業で児童生徒にどのような姿が見られたか」とした。付箋を利用し、成果（学んでいたところ）、課題（学びにつまずいていたところ）について、授業を参観して記入、また、授業参観できなかった場合はこれまでの自分の実践から記入することとし、全員で授業づくりについて検討できるようにした。授業研究会は、全学部の職員が6つのグループに分かれたグループ協議とし、付箋を基に各学部の「いわての授業づくり3つの視点」に基づいた授業実践について協議し、共通理解を図った。

VI 学部ごとの取組

1 小学部

(1) 今年度の実践

ア 授業づくりの考え方

全体研究会を受け、小学部の今年度の授業づくりの考え方について、第1回の研究日で共有し、教科ごとに授業づくりを推進してきた。全体の研究テーマに沿い、「いわての授業づくり3つの視点」に基づいた授業づくりについて、小学部では、前次研究の成果である授業づくりシート【別紙1】を活用しながら、3つの視点に迫る授業を考えていくこととした。授業づくりシートは、従来の形を継続し、T1を中心に授業前に作成し、授業に入る教師に配付した。その授業づくりシートを基に授業構成や内容について話し合い、児童の学びの充実につながるように活用することとした。授業後には、児童のよかった姿や、よりよい授業にするために必要な手立ては何かを、回覧形式で記入して共有しながら進めてきた。

これまでの授業を「いわての授業づくり3つの視点」に基づいて振り返ってみると、「視点1：学習の見通し」「視点2：学習課題を解決するための学習活動」については、内容や手立てを考えながら意識して取り組むことができていたと感じた。そのため、これまでの形式を継続しつつ、見通しのもちやすさや、課題解決のための学習活動の設定を、より意識して授業づくりを進めることを確認した。

一方で、「視点3：学習の振り返り」については、1単位時間毎や単元の終了時には簡単に振り返りを行ってはいったものの、児童の発言は「〇〇が楽しかったです」「□□がおもしろかったです」という漠然とした表現が多かった。これは、児童がどのように自身の学習を振り返ったり、それを表現したりするかという力がまだ身に付いておらず、また、その方法を学習する場を設定してこなかった結果であると反省した。そのため、3つの視点に迫るためには、「学習の振り返り」の在り方を検討し、児童と教師が共に取り組んでいく必要があると考えた。

授業づくりにあたっては、各教科等、単元設定の際に、児童一人一人のねらい（単元終了時の児童の姿）を明確にする必要があることから、小学部の取組として、「その単元でどんな力を育てるの？シート」【別紙2】を作成した。その理由は以下のとおりである。

- ・学部全体でメンバー構成をする授業が多く、授業者が、一人一人の児童の実態とねらいを的確におさえる必要性がある。
- ・ねらいを授業者全員で共通理解することで、授業構想や手立ての共有、教材・教具の開発、

複数の視点での評価を行い、授業の質を高めたい。

- ・ねらいをしっかりとおさえた授業を展開することで、児童の「できた!」「分かった!」「もっとやりたい!」という気持ちを育み、力の伸長を図りたい。
- ・児童の力の伸長や手立ての変容を記録して積み重ね、個別の指導計画作成などに活用したい。これらのことを小学部で共通理解し、授業実践にあたりたいと考えた。

イ 授業実践の具体的方法(10月に確認)

小学部の授業実践の具体的方法について、児童の学習内容、教師の手立て、活用するツールについて整理し、「いわての授業づくり3つの視点」に迫るための授業展開の在り方を学部研で確認した。

「いわての授業づくり3つの視点」に迫るための授業展開（小学部）

3つの視点	児童の学習内容	教師の手立て	活用するツール □児童 ■教師
単元全体 学習の見通し 一単位時間	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の内容や取組期間を理解する。 ・何をどのように学ぶのかを、理解する。 ・必要な学習用具などを確認し、学びに向かう姿勢を整える。 ・その時間で何をどのように学ぶのか、ゴールは何かを理解する。 ・学習への意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習期間を示す。 ・その単元で育てたい力を明確にする。 ・学習の具体的内容を、児童が理解できる形で示す。 ・学びに向かう姿勢を整えるために必要な事柄を示したり、自分の力で準備できる環境を整えたりする。 ・1単位時間の学習の流れを示す。 ・意欲を高めるために、教材の活用などを工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■年間指導計画 □カレンダー ■その単元で…シート □学習シート ■授業づくりシート □スケジュールボード □学習シート ■マスコットキャラなど
学習課題を解決するための学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・「見方」「考え方」を働かせて、課題を解決する。 ・分からないところは、友達や先生に質問する。 ・つまづいたときも、粘り強く取り組む。 ・目的に応じてペアやグループ活動を取り入れ、対話的な学びを通して、自分の考えを評価したり、改善（自己調整）したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項などを活用して取り組むことのできる課題や発問、児童が自ら考え行動する場面を設定する（スモールステップで）。 ・意欲につながる言葉掛けをしたり、考えるためのヒントを提示したりする。 ・「何ができたらよし!とするか」を授業者間で共有し、統一した指導や支援をする。 ・児童のつまづきを予想し、その対応を考えておく。 ・学びの充実につながるようなペア・グループを組む。 ★リードする、ついていく、支え合う ★同じような実態で学び合い、高め合う 	<ul style="list-style-type: none"> ■個別の指導計画 ■その単元で…シート ■授業づくりシート □これまでの学習シート □ペアリングを示す表

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">学習の振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 単位時間の授業で、「何を学んだか」を自覚する。そのことを、言葉やサイン、表情、カード選択、ICT 機器などで表現する。 ・ テストなどの評価問題や、自己評価、児童同士の相互評価、他者評価により、達成感や充実感を味わう。 【他者に認められる経験】 ・ 次単元や、他の学習活動に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 映像や写真を活用した、即時の振り返り場面を設定する。 ・ 児童の実態に合わせて、自分なりに表出できるツールを用意する。 ・ 検定、テスト、発表会など、モチベーションを高めたり、緊張感をもって取り組んだりすることができる場面設定をする。 ・ 友達の活動に注目し、よさを認め合ったり、学び合ったりすることができるように学習内容を設定する。 ・ 児童にとって分かりやすい言葉や手段で、評価を伝える。 ・ 学習を振り返ることができるように、記録として残す。 ・ 成果や課題を授業者間で共有する。 ・ 次の目標を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 映像、写真 □ 学習シート □ 実態に応じたコミュニケーションツール ■ その単元で・・・シート ■ 授業づくりシート ■ 個別の指導計画 □ 学習シート
--	---	---	---

ウ 授業実践の中で見えてきた課題とその解決に向けて

イに基づいた実践において、見えてきた課題とその解決の方向性について整理する。

【課題】

(ア) 活用しているツールが多い。

(イ) 同じような目標を設定しがちである。

児童ができるようになりたいこと、教師からみて児童に付けてほしい力を精選できていないことがある。

(ウ) 授業づくりシート作成やねらいの設定、教材・教具の準備、評価など、授業者全体でできているか。

【解決に向けて】

(ア) ツールが多いため、教師が作成している「その単元でどんな力を育てるの？シート」と児童が授業内で活用している学習シートを一体化する。教師のねらいと、児童が「できるようにになりたいこと」が一致するように設定したい。

(イ) 学習指導要領に基づいた授業展開

学習の過程では、児童が頑張っているところやできたところを細かく認めたり、称賛したりすることで、児童の自信や主体的に取り組む意欲を育てていきたい。そのためには、児童の実態に応じた指導目標や指導内容を吟味する。そこから、教材・教具や、補助具の工夫などを含めた学習環境を効果的に設定する。

(ウ) 学部全体で「よい授業＝よく分かる授業」を実践したい。

エ 全体研究での取組

全体研究会で提案した音楽の授業では、教師が作成する「その単元でどんな力を育てるの？シート」と児童が授業内で活用している学習シートを一体化し、授業づくりを行うこととした。児童とは「振り返りシート」という名称で共有して活用した。

<振り返りシート>

名前			
単元目標	やまのおんがくか	になろう。	
	がんばること	ないよう	ふりかえり
	がっきのなまえがわかる。 (こだいこ)	ほんもののがっきをみる。 がっきのおとをきく。 せんせいはがっきをきいて、あてはまるがっきをえらぶ。	チェック
	たんとどうするがっきがわかる。	みんなをかくしんする。 せんせいのやりかたをみて、まねする。	
	リズムがわかる。 (4分音符を2拍)	ハートでゆつをする。 リズムをきく。 こぼれなくしんする。 せんせいのやりかたをみて、まねする。	
	きよくにあわせてがっきをならす。	ハートでゆつをする。 きよくにあわせてならす。	
	みんなでえんそうする。	きよくにあわせてえんそうする。 しんやうたちのよかつたところをはつびようする。	

一単位時間の目標とならなくてもよい。
単元を通し、達成したいねらいを細分化して、目標を立てる。

学習の中で、児童と一緒に振り返り、記載する。児童の評価の裏返しだが、教師の手立ての評価であるところさえ、必要に応じて、手立てを見直しながら指導する。

児童が学ぶことと教師の手立てが一致するように、内容を記載する。

成果

- 視点1：学習シートに沿った丁寧な指導の積み重ねにより、担当楽器が分かり、自分から演奏に取り掛かることができた。
- 視点2：実態別グループで授業をすることで、よく音楽を聴いているなど感じる場面が増えた。また、やることが分かって、少しずつ自分で活動できることも多くなった。
- 視点3：児童の実態に応じて振り返り方法を工夫したため、意欲的に振り返りの活動に取り組むことができた。また、シート記載のやりとりを通して、学習の様子を教師と共有することで、よかったところや次時の目標を児童が確認できた。

課題

- 視点3：映像を見ているとき、「自分が映っていること」ばかりに気が向いていた。友達のどのようなところを見るのか、注目すべき点をあらかじめ伝えておくよかった。言葉だけの振り返りでは、理解の難しい児童もいる。ペンで花丸印を書いているが、充実感や達成感につなげられているか疑問である。イラストなども有効に活用できないかと思う。

この成果や課題を学部研において共有することで、手立てを見直したり、今後の方向性を確認したりしながら、授業づくりをすることができた。「いわての授業づくり3つの視点」について、他学部の職員からも意見をもらうことで、学部の取組の成果や課題を実感としておさえることができた。

課題として挙げられた、振り返りの方法について、音楽の一つのグループでは、即時の振り返りを取り入れることにした。歌唱、楽器、鑑賞、表現の中から、3項目程度の内容を取り上

げて授業を構成しているが、授業の最後のまとめとしての振り返りが、児童の実態から難しいと話題になった。そのことから、内容ごとに、よかった点や課題点を教師と一緒に振り返り、できていたら、教師に花丸の枠に自分の顔写真を貼ってもらう方法に切り替えた。そのことで、頑張ることで自分の顔写真を貼ってもらうことができるという実感を児童がもち、学習の意欲が高まるとともに、内容ごとに振り返りをするという流れが、身に付いてきた。児童の実態から、自分で振り返りのポイントを意識することは難しいため、教師が言葉やサインを用いて、児童にフィードバックした。

オ その他の教科

各教科等の授業づくりについて、例を挙げる。

教科等	授業づくりシート	その単元でどんな・・・	3つの視点（視点3）
体育	全体は T1 が作成 グループは必要に応じチーフが作成 授業前に配付し共通理解 授業後に回覧し授業改善	作成して進めたが、記入する量が多かった。 学習の様子を、評価の3観点別に記載しながら、それを受けた手立ての改善についても記載した。 後半は、観点別にこだわらず、学習の様子を記入した。	個人毎に、単元の目標を記載したカードを作成し、毎時間の最後にスタンプを押しながら振り返りをした。 後半は約10分、「何を」「どのように取り組んで」「どうだったか」を、文字やイラストで児童と振り返る時間を追加で設定した。
生活単元学習 (学部全体の単元)	全体は T1 が作成 グループは必要に応じチーフが作成 授業前に配付し共通理解 授業後に回覧し授業改善	作成して進めたが、記入する量が多かった。 目標は個々におさえたいので、シートには主に学習の様子を記載した。 後半は、児童の学習シートとタイアップする形で作成した。	毎時間、約15分設定し振り返りをした。「何を」「どのように取り組んで」「どうだったか」を、児童が分かるように文字やイラスト、写真を活用して学習シートを作成した。 学習シートは「大成功ブック」と愛称を付けた。

(2) 次年度に向けて

ア 「いわての授業づくり3つの視点」について

3つの視点に基づいた授業づくりを継続する。視点に基づいた授業づくりにより、児童にどのような力が身に付いたかを整理する。

イ 授業づくりシートについて

授業の流れを見通し、その時間で児童は何を学ぶのか、そのために必要な教師の手立ては何かを記載した授業づくりシートの作成を継続する。教師にとっても、分かりやすい授業づくりを工夫したい。

ウ その単元でどんな力を育てるの？シート

今年度作成を試みることで、教科により、よい点、検討が必要な点、即改善が必要な点があった。様式の在り方について検討しながら進めたが、教科の特徴により、盛り込みたい要素が異なったり、記入する分量が多く負担感があったりと、全教科で統一した様式にはならなかった。

た。しかし、学習の振り返りを記録として残すことで、児童の力の伸長やそのための手立ての変容が分かり、指導と評価の一体化につながってきた。児童と教師が授業の中で一緒に振り返りをすることが定着してきており、よい学びにつながっていると実感している。

様式は異なっても、学部として大切にしたい、「何を学んだか」「何ができるようになったか」ということが、児童も教師も分かる授業づくりのために必要なツールを開発したい。

エ 単元設定の在り方について

単元の取組期間が短いと、次から次へと題材が移り変わり、児童の学習の定着につながりにくいことが、研究推進の中で話題になった。教師の授業準備も慌ただしくなり、学習内容の吟味や目標が適切かを検討する時間をあまり設定できていないのが、正直なところである。このことから、じっくりと一つの単元に取り組むことのできるような授業計画や、年間を通じて付けたい力を見通した年間計画を立案する。単調な繰り返しではなく、一つの単元を通して、学習内容を深めていくことができる単元設定をしたい。

【別紙1】 授業づくりシート

学年・学団	小学部2～6年	
教科・領域・単元名	音楽「冬の曲に親しもう」	
取組期間・場所	12月1日（火）3校時 音楽室（ゆっくりグループ）	
ねらい	・その単元で何を育てるの？シート参照	
授業展開 指導の手立て 教材教具	授業展開 1 あいさつ ・当番の号令に合わせてあいさつをする。 2 12月・本時の学習の確認 ① 12月の学習の内容を確認する。 3 身体表現「ジャンボリミッキー」 ① ダンスの映像を見る ② 振り付けの確認 ③ 曲に合わせて踊る 4 歌「山の音楽家」 ① 曲を聞く ② 替え歌を知る ③ 歌う 5 楽器「山の音楽家」 ① 演奏する楽器を知る ② 楽器を自由に鳴らす ③ 曲を鳴らしながら自由に鳴らす ④ 演奏する場所を知る ⑤ 曲に合わせてみんなで鳴らす ⑥ 曲に合わせてひとりずつ鳴らす（動画を撮る） 6 振り返り ① 演奏の動画を見る。 ② 単元シートを見ながら、担当教師と振り返りをする。 7 あいさつ ・当番の号令に合わせてあいさつをする。	指導の手立て ・T1は当番を指名し、始めのあいさつをするよう言葉掛けをする。 ※スクリーン、iPadを授業展開3～5で使用 ・12月の学習や本時の学習内容を提示し、児童が活動に見通しをもてるようにする。 ・T1は児童の注目が集まったことを確認してから話し始める。 ・児童が覚えやすいように、振り付けを簡単にする。 ・振り付けをフレーズ毎に練習する。 ・実態に応じて、Tが児童の目の前で示範したり、身体支援を行ったりする。 ・児童がイメージしやすいように、写真やイラストを交えた歌詞を提示する。 ・替え歌を歌い、児童が親しんで歌えるようにする。 ・児童が興味を示す楽器にする。 ・鍵盤楽器の弾く音にシールを貼り、弾く音がわかるようにする。 ・児童に合わせた楽器の工夫を行う。 ・楽器に触れる時間を多く設ける。 ・動画を見た後に、単元シートに沿って担当の児童と振り返りを行う。 ・T1は当番を指名し、終わりのあいさつをするよう言葉掛けをする。
	取組の様子	こんな姿がありました！ここが良かった！

【別紙2】その単元でどんな力を育てるの？シート

音楽「その単元でどんな力を育てるの？」シート

<児童名 >

日にち		8 / 20		8 / 25		8 / 27		9 / 1	
歌唱 「南の島のハメハメハ大王」 <単元のねらい>	本時の ねらい								
	手立て								
	様子 ◎よくできた ○できた △難しい								
楽器 「いるかはざんぶらこ」 <単元のねらい>	本時の ねらい								
	手立て								
	様子 ◎よくできた ○できた △難しい								
楽器・鑑賞 「日本の音楽に親しもう～祭～」 <単元のねらい>	本時の ねらい								
	手立て								
	様子 ◎よくできた ○できた △難しい								

2 中学部

(1) 今年度の実践

ア 授業実践と授業づくりシート

前次研究で作成した「授業づくりシート」は、授業の略案にもなっており、日常の授業で活用が定着している。本研究を進めるにあたり、今年度も継続して活用し、「いわての授業づくり3つの視点」を盛り込んでいながら授業実践をすることを確認した。

様式を検討し、次のように改善した。

- ・略案となる「授業づくりシート【集団用】」は、単元の見通しをもつことができるように、取組期間の欄を単元計画、単元のねらいに変更し、単元について記載することにした。
- ・本時の授業の欄に、本時の日時、ねらいを追加した。
- ・3つの視点を意識できるよう、「授業づくりシート」に視点を明記し、3つの視点に基づいた支援には、単元計画、本時の授業の中に、**視点1**、**視点2**、**視点3**と書き込むことにした。

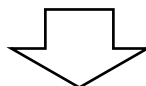
授業の振り返りに記入する「授業づくりシート【次の授業に向けて】」「授業づくりシート【グループ用】」の様式は大きく変更せず、視点について意識して書き込むことにしたが、進める中で、「授業づくりシート【グループ用】」には、3つの視点の記入欄を設け、その他の様子も記入できるようにした。

授業実践は、音楽、保健体育を主に、全教科等で取り組むこととした。3つの視点を取り入れた新しい様式で授業づくりシートを作成した授業について、音楽と保健体育で検証した。音楽では、何のための手立てか確認できた、振り返りをするようになり、生徒が考えていることが分かった、という成果が上げられた。保健体育では、単元計画を書くようになったので、流れを周知できるようになった、という成果が上げられた。また、授業後に記入する「授業づくりシート【グループ用】」の生徒の振り返りの様子を視点に分けて書くようになり分かりやすくて良い、という成果があった。

様式について、教科ごと独自の様式がいいか統一した様式がいいか検討した結果、どの教科も同じ様式で統一して進めることにした。

中学部 授業づくりシート【集団用】			
学部・学年			
教科・領域・単元名			
取組期間			
実態と課題			
ね ら い			
時間	学習内容及び学習活動	指導上の留意点（支援の手立て）	教材教具等

昨年度までの授業づくりシート【集団用】



- 視点1「学習の見通し」、視点2「学習課題を解決するための学習活動」、視点3「学習の振り返り」

中学部 授業づくりシート【集団用】 (R2. 9～ ver.)

学部・学年	中学部		
教科・領域・単元名	「 」		
単元計画	日 時	時数	活動内容・支援 (活動場所)
	月 日 () 校時		
単元のねらい	(1)		

本 時

日 時	月 日 () 校時 (時数 /)	場 所:	
本時のねらい	(1)		
時間	学習内容及び学習活動	指導上の留意点 (支援の手立て)	教材教具等

今年度からの授業づくりシート【集団用】

中学部 授業づくりシート【グループ用】

生徒	中学部					
指導場面						
取組期間						
学年						
氏名						
学習内容						
目標						
取り組みの様子 (3つの視点で 授業づくりをし た結果の生徒の 姿容も考えてみ ましょう)	視点1	視点1	視点1	視点1	視点1	視点1
	視点2	視点2	視点2	視点2	視点2	視点2
	視点3	視点3	視点3	視点3	視点3	視点3
	なんでも	なんでも	なんでも	なんでも	なんでも	なんでも

授業づくりシート【グループ用】

イ 学部授業研究会

全校研究会を音楽で行うことになったので、保健体育で学部授業研究会を行った。10月に参観週間を設け、保健体育「剣道」の単元の授業で研究授業を行い、視点ごとに見られた生徒の姿、授業づくりシートについて、協議した。

- ・視点1：始めに目標を提示することで、目標を意識し、見通しをもてていた。
見通しをもつことで不安になる生徒もいるが、表現を変えて対応した。
〈すり足〉の時、学年ごとのグループだったことで、生徒が自分の順番が分かり、見通しをもっている。学年のグループだと安心して参加できている。
- ・視点2：〈剣道形〉の時、一斉に取り組んでいたときより、仲間の動きを見るようにすると動きが良くなった。
- ・視点3：単元の最後にテストという形で発表し、みんな頑張っていた。
友達の前で発表し、緊張しながらも、みんなから褒められ、自分でもうまくいったと満足していた。
難しい剣道形も自分でできていた。
- ・授業づくりシートについて
保健体育は、授業ごとに記入し、回覧しているが、月曜日と水曜日のため、確認する2回目の回覧が間に合わないことがあり、その際は、口頭で確認している。
回覧するタイミングは、教科ごとに単元の組み方も違うので、教科によって統一しないことにした。

ウ 全体授業研究会

(ア) 全体授業研究会での音楽の授業づくりは以下のとおりである。

- ・視点1：歌唱では、強弱が分かるように歌詞カードを色分けし、意識して歌っていた。
演奏では職員による模範演奏をし、イメージをもたせたりした。
- ・視点2：実態に応じて難易度を分けた楽譜を活用したり、トーンチャイムは色分けしたうちわで示したりした。進んで取り組み、自信をもって取り組んでいた。
- ・視点3：毎時間、生徒には、くじ引きの形として、T1が予め選んだ2人を指名し、感想発表の場面を設定している。
振り返りを行う中で友達の良かった点を見つけ、互いを褒め合うことがあった。
感想発表が2人では少ないかと感じている。授業全体の時間を確保しつつ、丁寧に振り返る方法はないか考えていきたい。
- ・授業づくりシートを活用しながら、良かった点や改善点を授業者間で共有しており、それを基に細やかに評価できている。

(イ) 全体授業研究会を受けて、検討した内容は以下の通りである。

- ・視点1：ねらいを生徒と教員が共通理解することについて、音楽は活動が多いが、それぞれの活動の始めに提示しているので、生徒も意識して取り組んでいる。
保健体育は、授業の始めに主となる活動のねらいを提示している。
- ・視点2：すべての授業で、どこまでできるようにするか、見立てを含めて、教師間の共通理解が必要である。授業づくりシートでできればいいが、話すこともある。授業づくりシートに個々の様子を記入しているが、次の授業に間に合わないことがあるので、授業づくりシートの記入、回覧について検討が必要である。

- ・視点3：振り返りの発表が2名で発表する回数が少ないが、T1が意図的に指名しているので問題はない。回数を増やすのであれば、全体だけではなく、活動ごとにもあれば回数が増えるのではないか。

振り返りには、映像に残すことがとても有効である。

グループによっては、即時評価をしたり、言葉で振り返りが難しい生徒には、やってみることで覚えたことをみんなの前で発表したりしている。

- ・「授業づくりシート」を次時に生かす方法について

授業づくりシートの回覧について、検討を行った。現在、紙媒体で回覧し手書きで記入しているが、保健体育では、2回目の確認の回覧までが次の授業に間に合わないことがある。音楽は、週1回の回覧にしている。

授業者が早く共有できるようにするためには共有ファイルに打ち込む方法も有効かと思われるが、紙媒体と共有ファイルへの打ち込みには、どちらもメリットデメリットがあるので、いろいろな方法で試していくことになった。

(2) 今年度のまとめと次年度に向けて

今年度は、「授業づくりシート」を活用し、「いわての授業づくり3つの視点」に基づいた授業を意識した授業づくりを行った。単元のまとまりで見ること、ねらいを生徒と教師が共有すること、振り返りをすることが日々の授業で定着した。生徒たちは、目標を意識し、見通しをもって学習に取り組み、学習課題に自分の力で取り組もうとすることができるようになった。

次年度に向けて、「授業づくりシート」を次時へ生かすため、時間をかけずに授業者間で共有する方法を確立していく。3つの視点に基づいた授業づくりについて、音楽、保健体育以外の他の教科等での取組も確認する。生徒の学びの充実の実現にむけて、生徒が「何を学ぶのか」「何ができるようになったか」を明確にし、単元の評価が次の単元に生かされるようにしながら、「授業づくりシート」を個別の指導計画に生かせるようにしていきたい。

3 高等部

(1) 今年度の実践

ア 研究推進にあたって

今年度の研究を推進していくにあたり高等部では、第1回の研究日において「いわての授業づくり3つの視点」について確認し、前次研究で活用した「授業づくりシート」に3つの視点を盛り込んだ授業づくりをしていくことを確認した。

また、授業づくりに取り組むグループを「音楽」「保健体育」「重複障害学級(自立活動中心)」の3つとし、それぞれのグループで、3つの視点を盛り込んだ授業づくりシートを作成すること、授業後には、「振り返りシート」を活用しながら授業改善を図ることとした。

イ 実践のまとめ

(ア) 授業づくりシート

音楽、保健体育では、集団活動用の授業づくりシートを活用した。重複障害学級は、自立活動中心用の授業づくりシートを活用し、それぞれのケースを自立活動の視点も加えて授業づくりシートの作成・実践を進めた。さらに、音楽の授業にも参加していることから、11月より音楽グループと合同で授業づくりに取り組んだ。また、授業づくりシートは、音楽グループで作成しているものを基に、重複障害学級グループの生徒の実態に合わせて3つの視点

を入れながら作成した。

音楽では、単元における授業づくりシートを作成し、必要に応じて実施時間毎の授業づくりシートを作成した。その時間ごとのねらいを記述することで、教師が具体的な達成目標を意識した支援を行えるよう様式の工夫をした。重複障害学級の生徒については、音楽の授業づくりシートを基に一人ひとりの実態と課題、ねらいを記述した授業づくりシートを作成した。しかし、一人ひとりのねらいは明確に示せたが、読み手側が見にくさを感じたこと、支援の手立てが多岐にわたるため1枚にまとめることが難しくなってしまった。そこで、学級ごとに音楽の授業づくりシートを作成し、授業実践を行った。

高等部 授業づくりシート (集団活動用)		
活動集団	高等部全体	
教科	音楽	
取組期間	①1/21 (木) ②2/4 (木) ③2/18 (木) ④2/25 (木) ⑤3/4?リモート発表会	
実態と課題	<ul style="list-style-type: none"> 音楽活動を通して「楽しい」と感じる経験が少ない生徒が多い。 全体の場で自己表現することに恥じらいを感じる生徒が多い。 	
ねらい	①テーマに沿った曲を自分たちで選曲する。今後のグループ活動へ見通しをもつ。 *テーマ:「卒業」「応援」「春」 ②③音楽を通して仲間と活動する楽しさを感じる。振り付けや奏法を段階的に身に付ける。 *地域や大学のサークル活動のイメージ ④発表会に向け、自分たちの音楽を楽しんで表現できるような気持ちを高める。 ⑤後日シートを配付します。	
	【歌: 3-1教室】	【ダンス: 体育館】
		【楽器: サーマンホール】

「音楽」授業づくりシート (全体)

ねらいを取組期間ごとに設定することで、達成目標が明確となった。

高等部 授業づくりシート (全体 重複障がい学級用)		
活動集団	高等部 1~3年	
教科・単元名	音楽 太鼓	
取組期間	11月12日(木)~12月4日(木)	
実態と課題	せりな 悪風太鼓について意欲をもっている。一定のタイミングで打ち続けることが難しい。 月 仲間と悪風太鼓を演奏することを楽しくすることができる。 拓也 音楽を聴いて楽しく身体を動かすことができる。 大地 音楽を聴いて一定のリズムを演奏することができる。 優希江 静かな環境でホルトのリズムを演奏することができる。 輝嗣 演奏を楽しむことができる。息づかタイムでハチを持つ手を動かすことが難しい。 耕大 自分から演奏をしようとする意識が見られてきた。 優梨亜 問いかけや合図に発声しようとする場面が増えつつある。 芽依 太鼓の音など大きな音が苦手である。 開成 太鼓の音がすきで、仲間と一緒に活動を楽しむことができる。	
ねらい	せりな 中間の動きや音を聞いて、打ち始めや止めのタイミングを認識して演奏する。 月 周りの音を聞きながら、自分からスイッチを操作して演奏する。 拓也 大地 体調に応じて全体の活動に参加し、仲間と一体感を感じながら演奏する。 優希江 個別学習の中で、職員とやりとりをしながら音楽に親しむ態度を高める。 輝嗣 周りの音を聞きながら、鳴らす時、止める時のタイミングを認識して演奏する。 耕大 自分からハチを持つ手を動かす、演奏する。 優梨亜 教師とやりとりをしながら、周りの掛け声を聞き、発声する。 芽依 開成については実態に応じて活動する。	
場所	体育館	職員 小野寺 T、中村 T、福山 T、内川 T、岩花 T、渡部 T

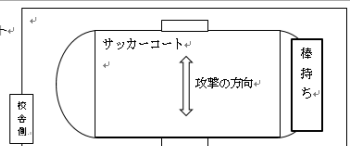
高等部 3年4組 授業作りシート			
学年	高等部3年4組		
教科・単元名	音楽 悪風太鼓		
取組期間	12月17日 節		
生徒名	伊藤 せりな	中村 月	
実態と課題	・悪風太鼓を音学的に取組む。 ・パートのリズムを打つことは難しい。 ・太鼓を打ち続けることは体力的なことや太鼓との距離や高さによって難しいところがあるが、休憩しながら、仲間の動きを見て一緒に打とうという気持ちがある。 ・振り付けを見るより見ようという気持ちがある。	・教師の声がけで鼓を動かしてスイッチを押すことができる。 ・教師が声をかけてから鼓を動かすまで時間がわかることがある。 ・マスクが気になって演奏に集中することが難しい時がある。	
ねらい	・悪風太鼓の1つの部分でハチを持つタイミングをみんなと合わせる。 ・指揮をつけて太鼓を打つ。 ・仲間と一緒に演奏することも楽しむ。	・悪風太鼓の1つの部分でハチを持つタイミングをみんなと合わせる。 ・指揮をつけて太鼓を打つ。 ・仲間と一緒に演奏することも楽しむ。	・教師の声を聞いてスイッチを押す。 ・仲間と一緒に演奏に集中することができる。
目標	指導上の留意点		
13:20	1 挨拶	マドモワールが動き、太鼓を台に斜めにセットする。	太鼓のフェイスシールドを用意し、マスクが気にならないようにする。
	2 本時の活動内容を見る		顔から胸元までが見えるように姿勢調整も行う。
	3 本時のねらいを知る (リーダー)		
	4 太鼓の準備		
13:40	5 合奏をする (演奏10分休憩)		
	「高潮」「高潮」 ※音楽を見て設定		
	・立ちのりや立ちのりする練習	・ハチを打つタイミングに合わせて教師が合図する。	・教師の声を聞きながら演奏する。
	・周りの音を聞きながら演奏する練習	・合図をしながらも打てる場面が増えたので徐々に合図を少なくしていく。	・空気に合わせて演奏できるように促す。
	・手の振り回りを合わせる練習	・T1の指揮や仲間の動き、太鼓の音を聞きながら演奏できるように促す。	
	・タイミングを揃える練習 (合図)		

重複障害学級 音楽 (全体) を基に学級毎に作成した授業づくりシート

学級毎の授業づくりシートとすることで、ねらいや手立てが読み取りやすくなった。

保健体育では、基本的に単元全体に関わる授業づくりシートを作成した。ねらいや3つの視点については、基本となる観点を記述し、授業ごとの細かい部分については授業担当者を中心に打ち合わせを行い、共通理解を図りながら授業づくりを行った。

高等部 授業づくりシート (集団活動用)	
活動集団	高等部全体
教科・単元名	保健体育「球技(サッカー)」
取組期間	11月10日(火)、17日(火)、24日(火)、12月1日(火)
美観と課題	<ul style="list-style-type: none"> 様々な運動に意欲的に参加する生徒が多く、技術の向上を喜ぶことができる生徒が多い。 集団競技、チームプレーを必要とする競技の経験が深い。 技術向上を迫ることができる生徒と、ゲームを楽しむ段階の生徒が。
ねらい	単元目標 <ul style="list-style-type: none"> 自分たちで課題を見つけ、学んだ技術を生かしながらゲームを行う。(サッカー) 仲間と一緒に、ボールを使った基礎的な運動を行う。(棒持ちサッカー) 集団の中で競技ルールを守ったり、道具の準備・後片付けをしたりする。
場所	雨天時：体育館 晴天時：グラウンド ・サッカー…トラック内に横広のコート ・棒持ち…フェンス砂山側に 10×5m程度?



「保健体育」授業づくりシート (全体)

時間	学習内容及び学習活動	指導上の留意点 (支援の手立て)
13:20+	出席確認	
13:25+	1 挨拶	
13:30+	2 学習プリントを使用し、単元の流れと本時の学習内容を知る。	観点1 ・学習プリントを使用し、学習の見通しのイメージがもてるようにする。本時の説明をする際は、次回以降自分が練習したい課題を考えながら試合をするよう伝えることで、ねらいの共有を図る。
13:35+	3 準備体操	
13:40+	4 ストレッチ	
13:45+	5 ボールタッチ	
13:50+	6 ボールを使ったレク	
13:55+	7 足でのボール操作	
14:00+	8 近距離のパス など	
14:05+	休憩	
14:15+	6 試合	観点2 ・試合前に自分が練習したい課題を考えながらプレーするように再度確認する。
14:20+	(1)一度集合し、チームを知る。	
14:25+	(2)サッカーグループと、棒持ちサッカーグループに分かれて競技を行う。	観点3 ・学習プリントを使い、見直しを再確認する。 ・教室に戻ってから、アンケート用紙に、自分が練習したい内容を記入するよう伝える。 ・アンケート記入がしやすいうように、まとめる際に試合の様子を簡単に好評として伝え、練習するとうまくなりそうなポイントの例を挙げるようにする。
14:40+	7 まとめ	
14:45+	(1)感想発表をする。(数名)	
14:50+	(2)次時の学習内容を知る。	
14:55+	8 アンケートに記入する	

(イ)「学習シート」、「記録シート」について

「いわての授業づくり3つの視点」に基づいた授業づくりを実践するために、音楽では「学習シート」、保健体育では「記録シート」を作成・活用した。これらのシートは、学習の見通しをもつことができたり、生徒が自ら課題意識をもって学習に取り組んだりすることができることをねらう教材として作成した。

3つの視点に関わる有用性については、(ウ)で記述する。

音楽で活用した「学習シート」

「魅せる」恵風太鼓～心は一つ!～

9月24日(木)	5・6時間目	[全体] パート発表
10月29日(木)	5・6時間目	[全体] 基礎練習(持ち方、打ち方)
11月5日(木)	5・6時間目	[全体] 基礎練習(持ち方、打ち方、いっ音)
11月11日(水)	1時間目	[パート] 海響(リズム)
11月12日(木)	5・6時間目	[全体] 海響(立つ、座る)
11月16日(月)	1時間目	[パート] 海響(リズム)
11月18日(水)	1・2時間目	[全体] 海響(曲通す)、希望(リズム)
11月25日(水)	1・2時間目	[全体] 希望、海響通し
11月30日(月)	1・2時間目	[パート&パート] 希望、海響通し
12月2日(水)	1時間目	[パート] ※2年修学旅行(祝大会)
12月3日(木)	5・6時間目	[全体] ※2年修学旅行
12月7日(月)	1時間目	[全体] ※2年修学旅行
12月9日(水)	1時間目	[全体]
12月10日(木)	5・6時間目	[全体] 中間発表会 確認り外作り
12月14日(月)	1時間目	[全体] 確認り外練習(リズム)
12月16日(水)	1時間目	[全体] 衣装配り ※2階校舎練習
12月17日(木)	5・6時間目	[全体] 衣装着用、水着同様の動き
12月21日(月)	1時間目	[全体] 速い、リズムの音階
12月24日(木)	1時間目	発表会本番!

11月20日、11月21日、11月22日

みんな頑張った!!

海響(ポルトチーム)

目標:①前を向いて演奏する
②ソロの最初の音をしっかりと打つ

全員できていた もう少し練習が必要

海響(ポルトチーム) 前を向いて演奏する!

目標:前を向いて演奏する!

全員できていた もう少し練習が必要

海響(ポルト3年) その調子でがんばれ!

目標:ソロの部分、速くならないように!

できた! もう少し練習が必要

希望(ポルト1・3年) 1年生の男子でまちまちでdyリガー

目標:2番のリズムを速くされずにたたく!

できた! もう少し練習が必要

希望(ポルト1・3年) 1年生の男子でまちまちでdyリガー

目標:2番のリズムを速くされずにたたく!

できた! もう少し練習が必要

希望(ポルトチーム) 中間発表会へ向けて!

2番のリズムをもっと速くたたく

保健体育で活用した「記録シート」 陸上種目ごとに観点を整理した

きろく、
記録シート

<短・中距離用>

自己記録(現状)

名前

月 日 () ※○ △で自己評価してみよう。

評価の観点

① スタートの際、前傾姿勢を保ちながら少しずつ身体を屈曲させることができたか。	② 走っているときに大きく腕を振って走っているか。
③ 前足を伸ばし、地面を強く蹴りながら一定のペースで走ることができたか。	④ ゴール手前でスピード落とさずに走りきることができたか。

<授業の振り返り> 測定タイム

きろく、
記録シート

<フライングディスク用>

自己記録(現状)

名前

月 日 () ※○ △で自己評価してみよう。

評価の観点

① しっかりディスクを握り、力まぎらずに投げることでできているか。	② 腕をまっすぐ前に伸ばし、体がひらきすぎないように投じられたか。
③ テイクバックを継続し、ディスクに回転をかけて投げることでできたか。	④ 目標は的にし、ディスクを地面と水平になるように投げることでできたか。

<授業の振り返り> 測定距離

きろく、
記録シート

<ソフトボール投げ用>

自己記録(現状)

名前

月 日 () ※○ △で自己評価してみよう。

評価の観点

① スタートの際、前傾姿勢を保ちながら少しずつ身体を屈曲させることができたか。	② 走っているときに大きく腕を振って走っているか。
③ 前足を伸ばし、地面を強く踏みながら一定のペースで走ることができたか。	④ ゴール手前でスピード落とさずに走りきることができたか。

<授業の振り返り> 測定タイム

きろく、
記録シート

<ソフトボール投げ用>

自己記録(現状)

名前

月 日 () ※○ △で自己評価してみよう。

評価の観点

① 肩より肘を下げないように、大きく腕を振って投げることでできたか。	② 姿勢を伸ばし、腕を振って投げることでできたか。
③ リズミカルに足運びをして投げることでできたか。	④ 投げるボールの角度(斜め上)を継続して投げられたか。

<授業の振り返り> 測定距離

(ウ) 「いわての授業づくり3つの視点」について

今年度の高等部の研究実践では、3つの視点に基づいた授業づくりにおいて、以下の実践を行い、生徒の変容をみることができた。

(音－音楽、保－保健体育、重－重複障害学級)

視点1

- ・ 単元全体の予定を一覧で掲示することで、生徒や指導に入る教師が見通しをもって活動に取り組めるようになった。(音)
- ・ 教師も一緒になって活動することで、生徒が授業のねらいを意識して取り組むようになった。(音、保、重)
- ・ 「記録シート」や「学習シート」を活用したことで、ねらいや目標を生徒と教師双方向で確認した。(音、保)
- ・ 練習のポイントを絞って記載した「記録シート」を活用することで、生徒も取り組む内容が分かりやすく、教師も統一した指導のポイントで指導ができた。(保)
- ・ 「学習シート」などでのねらいの理解が難しい生徒への個別の対応について事前に教師間での打ち合わせを行うことで、生徒の実態に合った方法でねらいや学習内容を確認した。(重)

視点2

- ・ 「記録シート」に自分で記録を記入することで、向上したこと、課題となったことについ

て意識付けをすることができた。(保)

- ・自分で選んだ「練習したい技術」を展開の中で取り組むように活動内容を工夫したことで、主体的に課題解決に向けて取り組むことができた。(保)
- ・自己の練習を iPad で動画撮影し、映像で振り返りをすることで、イメージと実際の動きについて捉えることができ、改善するポイントを「記録シート」に記述する生徒もいた。(保)
- ・学習における取り組み方を自己選択とすることで、生徒自身が自分に合った方法で鑑賞をしたり、表現をしたりする学習成果につながった。(音、重)
- ・姿勢や環境を設定することで、無理なく自分の力を発揮できるような手立てを組んだ。(重)

視点3

- ・「記録シート」「学習シート」を活用し、生徒自身が学習の振り返りを記述したり、掲示したりすることで、学習で取り組んだことを強く意識できるようになった。(音、保)
- ・あらためて単元のはじめに自分の力(現状)を確認する場を設け、単元の終わりの自分と比較をすることで、自分の成長を感じ、達成感を得ることができていた。(保)
- ・口頭での振り返りだけでなく動画を活用することで、視覚的にも生徒自身ができたこと、次に頑張ることを意識することができた。(音、保、重)
- ・タブレット型端末や生徒の実態に合わせた学習ツールを活用することで、より具体的な振り返りができ、次への目標立てや意欲付けにつながった。(重)

(エ) 全体授業研究会を受けて

全体授業研究会を受けて、出された意見をもとに学部で確認し、以下のようにまとめた。

視点1

- ・全体でねらいや目標を確認してから練習に入ることで、何に取り組むか意識して練習できていた。グループのリーダーが本時の目標を発表することで、教師からの発信よりも目標を意識して取り組むことができていた。
- ・単元全体を見通せる大きな表示は、単元の全体像から自分の成長、進むべき方向をきちんとイメージする意識が芽生え、多くの生徒が自主的に見ていた。他の授業にも生かせる教材の工夫である。

視点2

- ・リーダーのコメントを模造紙で提示したり、これまでの授業で提示した目標をホワイトボードに掲示したりすることで、「前を向く」「腕を高く上げる」などの課題を生徒自身が考えて、練習に取り組むようになった。
- ・教師の練習を取り入れることでリズムの共通認識をもつことができ、生徒の到達イメージを具体的に共有することができた。
- ・生徒同士で良かったところや課題を出しやすいように、グループ練習を多く設定することで、良い演奏にしようという意識が高まった。

視点3

- ・練習の様子をタブレット型端末で撮影し、振り返りの場面で視聴した。教師からの振り返りと合わせて、生徒が動画を視聴してどう感じたかを発表することで、自分自身の課題に気付くことができた。振り返りの活動として積み重ねていくことで、生徒が自ら課題を考え発言することができるようになってきた。

- ・重複障害学級の生徒については、全体での振り返りに参加できないこともあったが、教師がその場で称賛したり、撮影した動画を後で視聴したりすることで振り返りを行った。

(2) 次年度に向けて

「いわての授業づくり3つの視点」に基づいた授業づくりを実践するため、3つの視点を取り入れた授業づくりシートを活用し取り組んできた。3つの視点を柱に教師が共通理解を図り、実践を積み重ねることで、共通の視点で支援が統一され、生徒の学びの充実に迫ることができたと考える。音楽の「学習シート」、保健体育の「記録シート」についても、学習の見通しや課題解決に向けた教材として有用性が実践の中で認められた。生徒の学びの充実に有用な教材であると考えられるため、次年度も活用を進めていきたい。

次年度は、3つの視点を盛り込んだ授業づくりシートを活用しながら、単元の中で生徒にどのような力が身に付いたのかを整理し、評価につなげていける方法を検討していきたい。

VII 全体授業研究会のまとめ

全体授業研究会で、どのグループでも話題になったことは、「視点3：学習の振り返り」についてであった。それぞれのグループで発達段階や実態に応じた振り返りの方法について検討することができた。発達段階によって方法・手段は違うが、振り返りを繰り返していくことで、児童生徒は自分で振り返りができるようになることに教師も気づき、授業づくりにおいて小・中・高のつながりを意識した視点をもつことができた。

VIII 一年次のまとめと次年度に向けて

学部ごとに、「授業づくりシート」を活用しながら、「いわての授業づくり3つの視点」に基づいた授業づくりに取り組んだ。

視点1：見通しをもつ取組はこれまでも取り入れていることを確認した。児童生徒とねらいを共有することに取り組むようになった。

視点2：実態に応じたグループ、学習内容を設定することの重要性を確認した。児童生徒が自分で課題を解決しながら意欲的に学習に取り組むことを意識した。

視点3：学習の振り返りが課題であることが分かり、重点的に検討した。学部段階に応じた方法を検討していく必要がある。

「授業づくりシート」を活用することで、3つの視点に基づいた授業が定着してきており、児童生徒が目標を意識し、自分の力で目標の達成に向けて課題解決しながら、学習に取り組むようになった。

次年度は、「授業づくりシート」を活用した3つの視点に基づいた授業実践を継続しながら、児童生徒が自ら振り返り、次の課題意識をもって学びに向かえるように、「何ができるようになったか」を明確にする評価に取り組み、学びの充実を実現する授業づくりに迫っていきたい。